

2024~2025年度 地区スローガン

持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable！ Learn together Act together

2024~2025年度クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、人生をエンジョイ

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30 例会場 勝山市市民交流センター 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760 URL http://katsuyamarc.jimdo.co Email:katsuyamarc@gmail.com
■会長 斎藤清一郎 ■幹事 久保光子 編集発行・文責 公共イメージ委員会

第3045回 例会 (8月28日)

勝山・大野合同ガバナー公式訪問例会

勝山・大野ロータリークラブバナー贈呈

大野ロータリークラブ青木会長 点鐘

国歌・ロータリーソング・「奉仕の理想」「四つのテスト」斉唱

会長挨拶

勝山ロータリークラブ 斎藤 清一郎
本日は中本ガバナーをはじめ平野ガバナー補佐、服部副幹事長には地区の中でも一番遠いのではないかとと思われる奥越へお越しいただきありがとうございます。
台風10号の接近で前泊され、午前中は大野城や勝山城、恐竜博物館を回られたと先ほどの懇談会でお聞きました。

さて、大野と勝山の合同公式訪問になってちょうど10回目になります。以前より隣接クラブとして交流してまいりましたが、前回の地区協議会から大野クラブさんのバスに同乗させていただくようになり、往復の車中はもちろん、昼食や夕食を一緒にするなど交流を深めております。

また、勝山クラブの事務局が4月から大野クラブさんの事務局も兼務するようになりました。

こんな状況をお聞きになるともう合併して一つになったらと思われるでしょうか。

ただ、両クラブとも新会員の入会に力を入れておりますので、まだお互いに単一クラブとして頑張りたいと思っておりますので、これからも地区のご支援をお願いいたします。

この後中本ガバナーから直接本年度の方針をお聞きして私どもの活動に生かしたいと思っております。

よろしく願いいたします。

会長挨拶

大野ロータリークラブ 青木 吉弘

皆様こんにちは。本日はガバナー中本勝様、ガバナー補佐平野洋一様、副幹事長 服部亘様、遠く福井県奥越前の地までお越しく下さいまして、誠にありがとうございます。心より歓迎申し上げます。また斎藤会長をはじめ勝山ロータリークラブの皆様よろしくお願致します。

奥越地域は、白山山系のふもとに位置し豊かな自然と歴史、文化が融合した魅力的な地域です。四季折々の美しさが堪能できる場所でもあります。両市では、このような地域性の中、交流が盛んに行われています。ロータリークラブにおいても、昭和38年に勝山RCさんが大野RCのスポンサークラブとなつていただきました。おかげさまで、大野RCは一昨年に60周年を迎え、今年62年目となりました。これも皆様方のご支援のおかげと感謝申し上げます。

中本ガバナーは、持続可能なロータリーにするために何が必要かを問いかけています。一つは今一度、原点に立ち返り、できること・すべきことを見つめ直しましよう。

奉仕と親睦はロータリーの両輪です。親睦から生まれる信頼と友情は、奉仕活動の原動力となります。そして、信頼と友情を原動力にした奉仕活動を共に行うことで、さらなる信頼と友情が生まれるとおっしゃっています。この好循環サイクルを回すことでロータリー活動がより魅力的になり、会員拡大にもつながると思っております。

幸いにも、本年度は大野ロータリークラブがIMのホストを務めさせていただくことになりました。全員で力を合わせて大野らしいIMをつくり上げるという目標のもと、会員が一つになり、信頼と友情を深める機会となればと願っています。そして、次につながる魅力的な活動へと発展することを期待しています。10月12日には、この大野市文化会館にてIMの式典を開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。今後とも、中本ガバナーをはじめ、地区の皆様には大変お世話になりますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

●出席報告

8月28日 欠席2名 91.30%
8月20日 欠席5名 78.26%

上山 弥一

●S A A報告 (ニコニコ箱)

ガバナー公式訪問に際して

幅田 浩二

中本勝ガバナー
平野洋一ガバナー補佐
服部亘副幹事長

本日 プログラム	会員卓話 山内智子会員	9月3日 プログラム	ゲスト卓話 松田優一氏	9月10日 プログラム	ゲスト卓話 石塚美宝子氏	9月17日 プログラム	ゲスト卓話 大久保千恵氏
-------------	----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------

中本勝ガバナーアドレス



皆さんこんにちは。

今年度国際ロータリー第2650地区2024-25年度ガバナーを拝命しました中本勝でございます。所属は奈良ロータリークラブです。

昨日大野市で前泊させていただきました。台風で来られなくなったらいけないと思ひまして前泊いたしました。が、何のことはない台風は人が歩くスピードということで影響はありませんでした。

最初に私の自己紹介を兼ねて私の職業を選択したきっかけ、そしてロータリーとのつながりをお話しさせていただき、国際ロータリー会長のテーマと今年度2650地区の運営方針・目標をお話しさせていただきます。

私は1950年2月に奈良県生駒市で生まれました。私はいわゆる団塊の世代の3年目一番混雑している学年で、だいたい250万人くらいいたそうです。昨年度令和5年度の我が国における新生児出生が71万人というぐらいですので3.5倍の人数ということでございます。戦後の日本の復興を象徴するような希望の星の世代と言われていたわけですが、今となりましては我が国の年金財政を破綻に陥れる元凶というような忌まわしき世代という風に思われているわけでありまして、時が経てば世間の評価はかくも変わるものかと情けなく思っております。

若いころは運動を一所懸命やっておりました。中学校の時にハンドボールをやっており、97年に優勝させていただきました。私の部は7人しかいない小さい学校でした。ご存知の方がいらっしゃると思いますが、ハンドボールは7人でするスポーツです。部員7人で1回戦から2回戦とすすみ決勝戦までいくというのはなかなか難しいことでもあります。選手交代は一切なしで、スタメンで出たらそのままです。怪我をしたら1人少ないまま試合をします。それにもかかわらず優勝しました。監督にこの人数で優勝するのはすごいですよねと聞いたら、8人いたら君は出てないよと言われました。7人のおかげで出場できたというわけです。

大学は法学部に進み、同時に硬式庭球部に所属いたしました。毎日朝9時から夕方5時まで練習、練習で授業というものには出席できませんでした。多少不安はありましたが不満は全然ありませんでしたので一生懸命やっておりました。ところが実際にラケットを持ってテニスをするのは午前、午後各20分。他の時間はボールボーイとコート整備を毎日毎日やっておりました。

我々の1学年下高校3年生で神戸松陰女子高校に沢松和子さんという強い選手がおりまして全日本テニス選手

権の女子シングルスで優勝いたしました。大阪の韮公園のテニスコートセンターコートで決勝戦が行われて、見事勝ったわけでありまして。私はその時のボールボーイをしておりました。青春の全てをかけてテニスに打ちこんだわけでありまして、その成果、唯一の栄光の思い出というのは沢松和子の決勝戦のボールボーイをやったことです。

2年生になると大学紛争があり、授業そのものがなく大学封鎖になり、大学に入れませんでした。1年生の時は授業に出してくれなかったのですが、2年生のときは出たくても授業そのものがなかったわけです。3年生になり、封鎖解除、授業再開となりました。

ところが私、2年間何の勉強もしてなかったわけであり、教養課程はほぼ無試験で通過。専門課程に行くということになりました。ちょっとくらい勉強しないと、思っていた頃、テニス部の先輩から俺の頼みを頼むから聞いてくれと言われました。それは、とある都市銀行の入社試験を受けて欲しいということでした。人事担当の取締役が出て来られて色々お話をしていたところ、突如「わが行の将来を担うのは君だ！」と言われ、肩をバーンとたたかれました。合格ということでした。今では考えられない就職の青田刈りが激しい時代でした。私に頼んだ先輩も4年生でまだ就職してないのです。そんな人にも青田刈りをさせるような時代でございました。

安易な性格である私ですが、これではダメだ、お断りせざるを得ないと思ひ、先輩や都市銀行のメンツを潰さない方法としては、「司法試験を目指したいと思ひます。」と言ってお断りするしかありませんでした。いばらの道を進んだと思っていたわけでありまして、やってみれば本当にいばらの道でした。

銀行に勤めていればよかったかと後悔しましたけれども、普通の就職はできない身の上になっております。なんとか司法試験を突破することができました。そして大阪で6年間、恩師の事務所で勤務しました。その後32歳で奈良で独立いたしました。33歳で縁あって奈良RCに入会させていただきました。当時最年少の会員であり、非常に可愛がっていただきました。かつて相撲部屋で可愛がりということがあった時代がありましたが、まさにそれに近い状況でした。色々教えていただいた中で、I serve職業を通して奉仕する。これで自分が奉仕するだけではなく、We serve団体としてみんなで奉仕していく。この両方をやらないといけないと教わり、若い素直な私は全くその通りだと思ひました。

もう一つ、「ロータリーにはNOという返事はない」「はい・YES・よろこんで」しかないと言われて、そういうものかと思ったわけでありませぬ。

先日四つ目のロータリーの言葉があるとお聞きしました。「まってました」だそうです。

本年1月1日に能登であのような甚大な地震が発生し羽田空港での事故もありました。今年はこの先、日本はどうなっていくんだろう？と多くの方が思っておられたその最中、1月5日に羽田空港を飛び立ち、アメリカはフロリダ州オーランドで開催されました国際協議会に参加して参りました。ステファニー・アーチック会長は「ザ・マジック・オブ・ロータリー」と我々にお教えいただいたわけですが、残念ながら何をおっしゃっているのか英語でしたので全然分かりませんでした。日本へ帰り、日本語に翻訳されたものを読みました。おっしゃりたいことはみんな力で力を合わせてロータリー活動をやると良いことが生まれますよ。ということです。RI会長の方針を受けまして、今年度2650地区といたしましては、「持続可能なロータリーに共に学び共に行動」というスローガンを挙げさせていただきました。

今、ロータリーの在り方と言う事に関しては厳しい時代になっております。最盛期世界で130万人のロータリアンがいて、日本は13万人でしたが、今世界で120万人ですが、アフリカやインドで増えていて、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどロータリー先進国といわれていた国では激減しているようです。日本では8万人台に減っています。

一方で戦争が2年3年と続いています。またアメリカが自国第一主義を堂々と言っていて半分に近い国民が支持している状況の中で、ロータリーが理想とする活動がどの程度やっつけられるかは難しい状況だと思っています。

しかし、世界の状況がそうであればあるほど我々の理想とする事、そしてやってきた事の輝きは増すことはあっても減ずることはないと思っています。

持続可能なロータリーであるためには、必要不可欠な事は会員数を維持し、会員増強を常に意識して会の運営をしていくことだと思います。

幸いにして大野では4名、勝山では2名の会員を迎えることが出来ました。志を同じくする仲間がいる限りロータリーの輝きが無くならないと思っています。これでいいと安心されることなく持続可能なロータリー活動を継続していただきますようお願いいたしますとさせていただきます。



バナー交換

大野市文化会館



ガバナーより新会員へ
バッジの贈呈



勝山・大野合同懇親会

大野RC中川会長エレクト挨拶



大野RC森尾直前会長による乾杯



滝川会長エレクトによる締めのご挨拶

